2019 年 10 月吉日

千代田区立千代田図書館　御中

公益社団法人東京青年会議所
千代田区委員会
委員長　石川　暁棋

提言-家庭での読書習慣化に向けて-

はじめに

公益社団法人東京青年会議所千代田区委員会では、2019 年 7 月 14 日に「AI との共存社会に向けて～未来を創る親子読書～」と題して、花まる学習会代表・高濱正信氏、読書感想文ドリル著者・大竹稽氏、千代田区立神田一橋中学校の生徒会 2 年生 3 名、計 5 名の登壇者を招き、子育て世代を中心とした読書習慣化を推進することを目的とした事業を、明治大学にて開催いたしました。そして事業後の現在、神保町の書店や千代田区商店街連合会にも協力をお願いし、少しでもこの活動が広がることを目指しており、千代田区立千代田図書館様におかれましても本提言を提出させていただく運びとなりました。

（写真）当日の事業の様子

目的

事業の目的は、読書の重要性を子育て世代から広め、家庭での読書習慣化の一歩を踏み出してもらうこととし、子育て世代の保護者をメインターゲットとしました。読書は語彙の習得や知識の獲得、読解力の向上などの学力向上につながる面と、他者への共感や感受性の育成など心理的側面があるとされています。幼児の読み聞かせをはじめ、幼少期の段階から好影響があることがわかっており、早期に読書習慣を身に着けることが重要です。本事業では、読書の楽しさや価値を実感し、読書の有意義性を改めて伝えました。

(写真左から)千代田区委員長・石川、講師・高濱正伸氏、講師・大竹稽氏

事業内容

2019 年 7 月 14 日、明治大学にて小学生の保護者を中心に 257 名にご参加いただきました。千代田区立神田一橋中学校の生徒会 2 年生含めた登壇者による講演等を行い、その中で最後の総括として、委員長である石川暁棋より提言を行いました。提言内容は、以下の通り、家庭、行政、企業向けのものを 3 点で、参加者からアンケートを通してそれぞれの評価をいただきました。

【家庭】家庭読書会

子どもの読書習慣には、保護者の読書習慣が影響を与えます。本を読んで、インプットだけで終わらせず、過程に向けてアウトプットする概念を作っていただきたいと考え、保護者からの「本を読みなさい」という圧力ではなく、家庭内でお互いに読んだ本をテーマに話をするなど、家庭内で自然と読書に対する意識が向く環境づくりが必要な点について示しました。

【行政】未来型図書館

親子が読書をするにあたり、公立図書館の役割は重要であると考えています。幅広い書籍を無料で借りることのできる図書館は貴重な役割を担っています。しかし私どもが多くの方とお話しさせていただく中で、その図書館の使われ方が変わってきている印象を持ちました。主には学生や社会人の勉強などで使われることが多く、無料のスペースとしての位置付けが強いと感じています。また一般的に図書館は静かであり、書籍が多いため飲食の禁止を多く施設が案内していると認識しております。現在も図書館の役割は果たせていると考えつつも、より気軽に、頻度高く親子が集まれる場所にすることが現在の図書館の課題であると私たちは考えております。

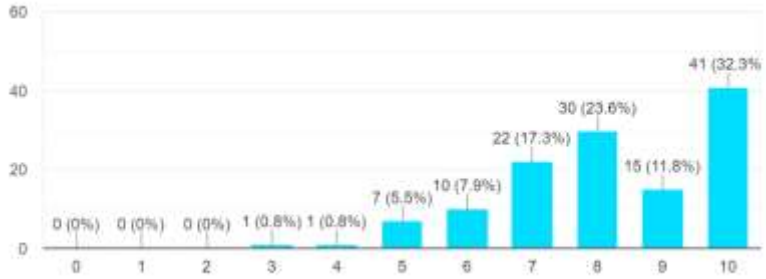
【企業】千代田メトロ文庫

日常的に本との距離を縮めるために、各企業が意識して書籍との関係を作る必要があると考えています。今回は例として鉄道の駅などに本棚を設置し、鉄道利用者が読み終わった本を本棚に置き、また自由に借りていける書籍のシェアリングサービスの運用を提言としました。すでに東京メトロ千代田線根津駅で運用されている仕組みで、始まりから 30 年続き 600 冊以上の蔵書がある状況です。

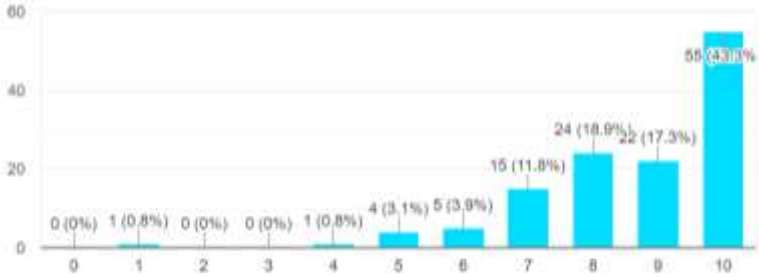
<アンケート結果>

「公社）東京青年会議所千代田区委員会が行った提言について共感いただけましたか。」という質問方法で、0 から 10 の 11 段階でアンケートを行い、以下の回答結果となりました。（回答数=127）

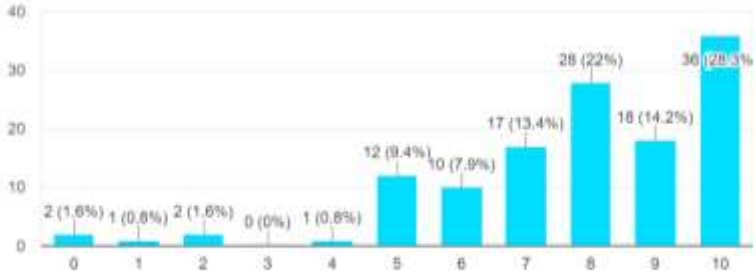
① 家庭への提言「家庭読書会」（平均：8.2）



② 行政への提言「未来型図書館」（平均：8.7）



③ 企業への提言「千代田メトロ文庫」（平均：7.8）



未来型図書館について

対象は 3 歳から小学生の子どもであり、テーマは「本と共に過ごす親子での時間を通して、人々に心の豊かさと、明るい未来を提供できる場所」。キーワードは以下がイメージです。

- 本と共に、親+子が過ごせるスペース
- 本と共に、親+親が過ごせるスペース
- 本と共に、子と子が過ごせるスペース
- 明るい / 賑やか / 落ち着ける / 区民憩いの場所
- 区役所が持つ区民向けサービスの提供

ご存知の通り、現在民間の書店ではカフェと共同運用し、購入した飲料を店内に持ち込め、本を読みながら楽しむことができる店舗が増え始め、「読書をしたい」というニーズがある人たちが集まっています。またデザイン性の高いキッズスペースを用意した店舗など、創意工夫に富んだ施設づくりで、書店に訪れる動機を積極的に作っています。EC サイトや電子書籍などが背景にあると思われますが、本を買うだけの動機以外で、人が書店にどのように集まるか真剣に考えられている取り組みと言えます。また長野県では、おしゃべりも飲食もOK、館内も子どもが楽しんで本に触れることができるインテリアの「小布施町立図書館まちとしょテラソ」（長野県上高井郡）が注目を集めています。様々な理由を背景に読書離れする現状において、各施設の創意工夫が表れています。

千代田区は東京都内でも名実共に注目されるエリアであり、区民もその千代田区のサービスに期待しています。家庭において保護者が中心に読書の重要性を認識・行動することはもちろん、行政面において気軽に親子で図書館に訪れることができる環境整備が進むことを通して子育て世代を中心に読書習慣化が推進されます。読書習慣化のある大人・保護者の姿を見た子ども達は普段から本に接する機会や動機が増え、それによって言語能力の発達、創造性、社会性を有した人材が育成され、今後 AI が台頭してくる社会において、AI に代替されない仕事へ就くことができ、AI と共存できる社会につながると考えています。次世代を生き抜く力を備えた子どもが地域から増えることを通して、その子ども達が成長し、将来明るい豊かな千代田区が実現されることを願い、千代田区立 5 つの図書館にて未来型図書館を検討いただきたい。

以上